

水稻新系統「滋系60号」および「滋系糯59号」の育成について

野田 秀樹・谷口 真一・小原 安雄・寺本 薫・植田 儀一郎**

栽培特性に優れた、良食味の「滋系60号」および「滋賀羽二重糯」の改良系統「滋系糯59号」を育成したので、その特性等について報告する。

1. 滋系60号

「滋系60号」は良質多収を育種目標に置き、1985年に「越南135号」を母、「滋系51号」を父として人工交配を行い、育成した。

出穂期および成熟期は「こころづくし」と同程度からやや早い、中生の早の稈種である。稈長は「こころづくし」に比べ約7cm短く極短稈、穂長・穂数は同程度の中間型の草型を示す。収量性および品質は「こころづくし」に比べ明らかに優り、良質多収である。耐倒伏性は「こころづくし」並で、「日本晴」に優り強稈である。いもち耐病性および穂発芽性については、いずれも「こころづくし」および「日本晴」に優る。官能検査による食味は「日本晴」と同程度からやや優り、良食味である。

1994年度の世代は雑種第11代(F₁₁)に当たる。

2. 滋系糯59号

「滋系糯59号」は、「滋賀羽二重糯」の栽培特性の改善を目指して、1985年の春に農林水産省農業生物資源研究所放射線育種場に依頼して、同品種の種子に⁶⁰Coガンマー線を照射し変異を誘発させ、その中から育成した人為突然変異系統である。

出穂期および成熟期は「滋賀羽二重糯」とほぼ同じ晩生の糯種である。稈長は「滋賀羽二重糯」に比べ約7cm短く、穂長・穂数は同程度の中間型の草型を示す。収量性および品質は「滋賀羽二重糯」と同程度である。脱粒性は「滋賀羽二重糯」の易に対し、やや難である。耐倒伏性や穂発芽性、いもち耐病性等については「滋賀羽二重糯」と同程度である。

1994年度の世代は、突然変異処理第10代(M₁₀)に当たる。

表 「滋系60号」および「滋系糯59号」の特性表

品種または系統名	滋系60号	比) こころづくし	滋系糯59号	比) 滋賀羽二重糯
熟 草 期 型	中生の早 中間型	中生の早 中間型	晩 生 中間型	晩 生 中間型
出穂期(月・日)	8.10	8.8	8.18	8.19
成熟期(月・日)	9.18	9.17	10.3	10.4
稈 長 (cm)	75	82	98	105
穂 長 (cm)	19.7	20.6	22.5	22.5
穂 数 (本/m ²)	427	441	436	412
耐 倒 伏 性	極強	極強	極弱	極弱
耐 病 性	葉 い も ち	やや強	中	弱
	穂 い も ち	やや強	中	弱
	紋 枯 れ	中	中	やや弱
穂 発 芽 性	難	中	やや易	やや易
玄米重(kg/a)	69.8	63.8	56.1	57.4
同上比率(%)	109	100	98	100
玄米千粒重(g)	22.9	23.4	22.5	22.2
玄 米 品 質	4.5	6.5	-	-
食 味	上の中	上の下	上の上	上の上
脱 粒 性	難	難	やや難	易
調 査 年 次	1992年~1994年		1989年~1993年	
調 査 場 所	滋賀農試栽培部(育成地)			

注) 品質は、1(上上)~9(下下)の9段階により判定。

* 湖南地域農業改良普及センター

** 滋賀県農林水産部農産普及課